

第4学年1組 国語科 学習指導案

単元名：みんなで紡ぐ ひまわり連詩

教材文「言葉をつなげて」

男子 13名 女子 14名 計 27名

指導者 保田 典子

単元について

○ 単元観

本単元は、小学校学習指導要領解説国語科第3学年及び第4学年、「B書くこと」の指導事項（1）「ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。」「カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。」の内容を受けて設定したものである。

本単元では、学習指導要領の「B書くこと」の言語活動例（2）「ア 身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。」を基に、総合的な学習の時間に町花「ひまわり」を活用した活動を行った体験を生かし、海田町の町花「ひまわり」を題材とした連詩を創作する言語活動を位置付ける。総合的な学習の時間の「みんな大好き 海田の自然」の学習と関連させ、友達と協働して連詩を創作する活動を通して、言葉から想像を広げて、詩を書くために必要な言葉を集める力を身に付けたり、友達の創作した連詩を読み、表現の工夫を見付けたり書き手の思いについて考えたりする力を身に付けたりすることをねらいとしている。また、創作した連詩を詩集にまとめ、「ひまわり」を通じた体験活動でお世話になった地域の人たちに読んでもらうという目的をもたせることで、体験から考えたことや思ったことを表現し伝えることの楽しさや喜びに気付くことができる。

連詩は、友達と協働して一つの作品を創り上げるため、一人で創作する場合と比較して、大きく発想の広がりを見せることができ、その面白さを味わうことができる。友達の創作した詩の一連に、自分の思いをつなげて連詩を作ることは、友達の思いを受けとめ、それに関連付けて自分の思いを表現することであり、創作や交流において友達とのつながりを感じながら学ぶよさを味わうことができると考える。

○ 児童観

本学級の児童は、これまでに、発見や感動が伝わるように言葉を考えて詩に表現したり、心の動きについて表現を工夫して文章を書いたりする学習を行ってきた。事前のアンケートでは、「作文や日記などの文章を書くことが好き」という児童は76.0%で、その理由として、「出来事や感じたことを書く楽しさ」を挙げている。また「詩を書くことが好き」という児童は68.0%で、その理由として、短い言葉でまとめて表現することのよさを挙げている。一方、「詩を書くことが好きではない」児童は32%で、「なにを基にして書けばいいのか分からない」「思ったことがたくさんあり、短く書くことが難しい」「どんな言葉を入れたらいいのか分からなくなる」などの理由を挙げている。アンケートの結果から、児童が、書く事柄を収集することや詩を書くために表現を工夫することに難しさを感じていることがうかがえる。

1学期の「心の動きを伝えよう」の学習では、心の動きや気持ちを読み手に伝えるために、気持ちを表す言葉を工夫して気持ちを伝える文章を書く経験をしたり、作品の交流において、気付きや感想を述べ合い相互評価を行ったりしている。集めた言葉から、より具体的に気持ちを表す言葉を選び、表現を工夫して書く姿がみられるようになってきている。交流の場面では、文章の内容についての感想は言えるが、評価の観点を明らかにして、具体的に気付きや感想を述べ合うまでには至っておらず、効果的に交流が行われているとは言えない。

○ 指導観

指導に当たっては、単元を通して連詩の創作を行う時間を意図的に設定するとともに、単元と並行して詩集を読んだり、日常的に詩の創作を行ったりする活動を多く取り入れ、児童が抵抗なく楽しみながら学習に取り組めるようにしたい。

課題の設定では、これまでの詩の学習を生かしながら、連詩の創作体験をさせることで、友達と協働して連詩を創作することの楽しさに気付かせ、連詩創作への意欲をもたせたい。連詩創作の過程では、まず、連詩の特徴についてつかませる。グループでの連詩創作や共通の連から続きの一連を個々で創作する時間を設定し、一人が創作したときと、友達と協働して連詩を創作したときの違いについて感じ取らせたり、互いに読み合い、比較することを通して、書き手の思いを受け、前の連とのつながりや言葉と言葉のつながりを考えることの大切さに気付かせたりする。次に、題材に関連する言葉を集める際には、総合的な学習の時間での体験を想起しながら、個人で付箋に言葉を書き出し、イメージマップを用いて集めた言葉を整理した後に、グループで交流する時間を設定し、さらにイメージを広げたくさん関連する言葉を集めたりできるようにすることで、詩を書くための題材について想像を広げる。連詩の創作に当たっては、前の連とのつながりを考えたり、友達の思いを想像したりしながら、言葉を選んだり、よりよい表現を工夫したりして創作に取り組めるようにしたい。4人のグループを意図的に設定し、相互にかかわり合いながら互いのよさを認め合い、どの児童も安心して学習に取り組めるようにする。

作品交流の場面では、「表現の工夫」や「書き手の思い」を評価の観点とし、付箋に色分けをして、書き出させることで、交流の視点を明確化して、感想や意見を述べ合うことができるようにしたい。また、交流を通して、一人一人の感じ方や思いの違いがあることや表現の工夫に気付かせることで、言葉の大切さをより実感できるようにしたい。

単元の目標及び内容について

- 活動の体験を生かし、連詩をつくることに意欲をもって取り組もうとする。 【関心・意欲・態度】
- 詩を書くための題材について想像を広げ、関連のある言葉を集めることができる。【書くこと ア】
- 書いた詩を読み合い、表現の工夫や書き手が想像したこと、思いについて交流することができる。 【書くこと カ】
- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付き、言葉を選んだり、表現を工夫したりすることができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（ア）】

単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
【言語活動】 海田町の町花「ひまわり」を題材とした連詩を創作する。		
活動の体験を生かし、連詩をつくることに意欲をもって取り組もうとしている。	詩を書くための題材について想像を広げ、関連のある言葉を集めている。 書いた詩を読み合い、書き手の表現の工夫や想像したこと、思いについて感想や意見を述べている。	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付き、言葉を選んだり、表現を工夫したりしている。

単元で育成したい資質・能力

	A	B
【主体性】	・活動の体験を生かし、想像を広げながら、連詩をつくることに意欲をもって取り組もうとしている。	・活動の体験を生かし、連詩をつくることに意欲をもって取り組もうとしている。
【思考力】	・詩の題材から想像を広げて考えたり、全体を通して、各連を関連付けながら、表現の工夫や書き手の思いについて考えたりしている。	・詩の題材から想像を広げて考えたり、連と連を関連付けながら、表現の工夫や書き手の思いについて考えたりしている。
【自己理解】	・体験したことを、友達と協働して詩に表現する活動を通して、考えや思いを表現し伝えることの楽しさや喜び、自己の成長に気付く、次の学習へ学びをつなげようとしている。	・体験したことを、友達と協働して詩に表現する活動を通して、考えや思いを表現し伝えることの楽しさや喜びに気付いている。

指導と評価の計画

全9時間

次	時	学習内容	評価				
			関	書	言	評価規準	評価方法
		総合的な学習の時間 「みんな大好き 海田の自然」 ○町花「ひまわり」を活用した活動を行う。 ・地域の方や保護者など町の人に「ひまわり」に親んでもらえるような活動を行う。					
		国語科「詩を読もう」 ○詩に書かれている場面の様子や人物の気持ちを想像して、詩を音読する。 ・言葉の響きやリズムを味わったり、詩に書かれている場面の様子や作者の思いを想像したりし、工夫して音読する。					
一	1 2	課題の設定(2) ○町花「ひまわり」を活用した活動の体験を生かし、連詩をつくりたいという意欲をもつ。 ・創作体験から、連詩をつくることの楽しさを味わい、「ひまわり」を題材とした連詩を創作して詩集にまとめるという学習課題を設定する。 ・ゴールの見通しをもち、学習計画を立て、単元で付けたい力について考える。	○			・体験を生かし、連詩をつくることに意欲をもち、単元で付けたい力について考えようとしている。	ワークシート ノート 行動観察
二	3 4	情報の収集・整理・分析(3) ○連詩の特徴をとらえる。 ・グループで創作体験をし、これまでに学習してきた詩との違いを考える。 ・共通の連から続きの連を創作し、比較することを通して、連のつながりや題との関連からよりよい表現の工夫について多面的に考える。	○			・創作した連詩の比較を通して、連詩の特徴を理解し、表現の工夫について考えている。	ワークシート

次	時	学習内容	評 価				
			関	書	言	評価規準	評価方法
二	5	○体験したことを想起し、言葉集めをする。 ・総合的な学習の時間の活動を基にし、「ひまわり」を題材として想像を広げたことを付箋に書き出し、イメージマップにまとめる。		○		・詩を書くための題材について想像を広げ、関連のある言葉を集めている。	ワークシート 行動観察
	6 ・ 7	まとめ・創造・表現（２） ○題材「ひまわり」に即して、友達を書いた連につながり、連詩を創作する。 ・題材に合う言葉を選び、前の連とのつながりや題材との関連を考え、表現を工夫して連詩を書く。 ・創作した連詩を読み、題を考える。	詩集の並行読書		○	・題材に合う言葉を選んだり、連のつながりや題材との関連を考えながら、表現を工夫したりしている。	ワークシート 行動観察
8	振り返り（２） ○創作した連詩を読み合い、交流する。 ・作品を読み合い、友達の表現の工夫を見付けたり、思いについて考えたりする。 【本時】			○	・書いた詩を読み合い、表現の工夫や書き手が想像したこと、書き手の思いについて交流している。	評価付箋 行動観察	
三		総合的な学習の時間 「みんな大好き 海田の自然」 ○町花「ひまわり」を活用した活動を振り返る。 ・国語科で創作したひまわり連詩を詩集にまとめ、お世話になった地域の人たちに読んでもらい、体験を通して考えたことや思ったことを伝える。					
	9	学びのモニタリング ○自らの学びや学び方を振り返る。 ・連詩の創作や地域の人たちからの感想を通して、体験から考えたことや思ったことを表現し伝えることの楽しさや喜びに気付く。 ・単元の初めに立てた「ゴールの見通し」の視点でノートや作品を基に自らの学びを振り返る。		○		・体験したことを、友達と協働して詩に表現する活動を振り返り、考えや思いを表現し伝えることの楽しさや喜びに気付いている。	行動観察 ワークシート

本時の学習

（１）本時の目標

- 作品を読み合い、書き手の表現の工夫や想像したこと、思いについて意見を述べ合うことができる。

（２）本時の評価規準

- 作品を読み合い、連と連を関連付けながら、書き手の表現の工夫や想像したこと、思いについて考え、意見を述べ合おうとしている。

【書く能力】

(3) 本時の学習展開 (8 時間目 / 全 9 時間)

<p>学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫</p>	<p>◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て</p>	<p>評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力</p>
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>◇作品を交流し、表現の工夫を見付けたり、書き手の思いについて考えたりしたことを発表し合うことを確かめる。</p>	
<p>めあて 書き手の表現の工夫や作品にこめられた思いについて考えたことを伝え合おう。</p>		
<p>本時のゴールの見通し A：全体を通して、各連を関連付けながら、書き手の表現の工夫や思いについて考えている。 B：連と連を関連付けながら、書き手の表現の工夫や思いについて考えている。</p>		
<p>2 グループで作品を読み合い、表現の工夫を見付けたり、書き手の思いについて考えたりする。 ○表現を工夫しているなどと思うところを見付けたり、作品に込められた思いについて考えたりしましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>□思考の場の工夫 関連付ける 連と連を関連付けながら、表現の工夫を見付けたり、書き手の思いについて考えたりする。</p> </div> <p>表現の工夫 <くり返し・リズム> ・どの連にも「じりじり」や「きらきら」など繰り返しの言葉を入れているので、様子がくわしく伝わってくる。 <連想> ・前の連の「太陽」という言葉から「黄金」という言葉をつなげている。太陽の輝きとひまわりの色をイメージしていることが分かる。 <たとえ> ・ひまわりの花を人にたとえて「おふとん」「目をさまし」「水を飲む」という言葉で表している。 ・「ひまわり」を「黄金」と言い換えている。</p> <p>思い ・「はじけるげんき」「にこにこえがお」という言葉から、「ひまわり」を見て元気になったり笑顔になったりしているのだなと思った。 ・各連の「水やりがんばるぞ」「こんにちは」「仲間入り」の言葉から花がさくのを楽しみに待っていた気持ちが伝わる。 ・「ありがとう また来年」という言葉からまた来年もひまわりを育てたいなという気持ちが伝わる。</p>	<p>◇他のグループの作品を読み合えるように3人グループを設定する。 ◇言葉に線を引きながら読むようにさせる。 ◇読み合う観点別に色分けして付箋に考えたことを書くようにさせる。 (「表現の工夫」は青、「思い」はピンク) ◆前の連のどの言葉につなげたのか着目させたり、自分の作品と比べながら、観点を一つに絞り、読むようにさせたりする。 ◇各自が書いた付箋を基に、グループで、観点にそって交流するようにさせる。また、自分は何を伝えたいと思いい、どのような言葉を選んだかについて述べ合うようにさせる。</p>	


<p>学習活動</p> <p>○主な発問</p> <p>・予想される児童の反応</p> <p>□思考の場の工夫</p>	<p>◇指導上の留意事項</p> <p>★めざす児童の姿</p> <p>◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て</p>	<p>評価規準〔観点〕</p> <p>(評価方法)</p> <p>◎本時で付けたい力</p>
<p>3 全体で交流する。</p> <p>○見付けた表現の工夫や作品にこめられた思いについて考えたことを発表しましょう。</p>	<p>◇選んだ言葉や表現の違いから、感じ方の違いやそれぞれの表現のよさに気付けるようにする。</p> <p>◇自分がなぜそのような表現を選んだのかという書き手の思いについても交流させる。</p>	<p>◎作品を読み合い、連と連を関連付けながら、書き手の表現の工夫や思いについて考えたことを述べ合っている。〔書く能力〕(評価付箋・行動観察)</p>
<p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>◇交流を通して、分かったことや思ったことをまとめるようにさせる。</p>	
<p>★めざす児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ「ひまわり」という題材で連詩をつくったけれど、どのような言葉を選びつないでいくかにより、伝わる思いが違ってくことに気が付きました。 ・前の連から言葉をつないで表現した思いを、詩を読んでくれた友達が受けとめてくれたので、わたしの思いが伝わってよかったなと思いました。 		
<p>◇次時は、地域の人たちに読んでもらえるように作品を詩集にまとめたり、学習を振り返ったりすることを確認する。</p>		

(4) 板書計画

<p>ふり返り</p>	<p>作品にこめられた思い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ありがとう また来年」 ↓ また育てたい ↓ 花を楽しみに待つ気持ち ・「水やりががんばるぞ」「こんにちは」「仲間入り」 を見て元気、笑顔 ・「はじけるげんき」「にこにこえがお」 ↓ ひまわり 	<p>表現の工夫</p> <p>連想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽から「黄金」の連想 ↓ 太陽のかがやきと花の色イメージのつながり <p>たとえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花を人にとえて ↓ 「おふとん」「目をさまし」「水を飲む」 	<p>交流のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 表現の工夫 (青) ○ 作品にこめられた思い (ピンク) 	<p>めあて</p> <p>みんなで紡ごう ひまわり連詩</p> <p>「言葉をつなげて」</p> <p>書き手の表現の工夫や作品にこめられた思いについて考えたことを伝え合おう。</p>
-------------	--	--	--	---

思い・イメージ ↔ 言葉のつながり

「言葉」と「思い」は関連し合っている。



<参考> 「学びのモニタリング」

5 うかがい
がた 4 できた 3 できた 2 できた 1 できなかった

思考力・・・しっかりと考える力

詩の題材から想像を広げて、言葉を集めたり、作品を読み合い、連と連を関連づけながら、書き手の表現の工夫や思いについて考えたりしたか。

5 うかがい
がた 4 できた 3 できた 2 できた 1 できなかった

主体性・・・**チャレンジする力**

活動の体験を生かし、連詩をつくることに意よくもつて取り組んだか。

四年組 ()

学びのモニタリング

みんな紡ぐろう ひまわり連詩

「言葉をつなげて」

学習をふり返って

5 とてもよく
できた 4 できた 3 できた 2 できた 1 できなかった

自己理解・・・**自分のよさや成長に気づく力**

体験したことを、友だちとともに詩に表現することを通して、考えや思いを表現し伝えることの楽しさや喜びに気づけたか。

これからの生活で生かしていきたいな
と思うこと

